

第二十一回（二〇二二年）

島木赤彦

「童謡」コンクール

作品募集のご案内

主 催

下諏訪町教育委員会  
下諏訪町教育委員会  
島木赤彦研究会

後 援

信濃毎日新聞社  
長野日報社  
長野新聞グループ  
市民新聞グループ  
エルシーブイ株式会社  
島木赤彦研究会  
長野県支部

応募要項

一、内容

赤彦童謡のようにな、身近な作品に取材した作品。諏訪の風土に合った作品は、赤彦の時代を懐かしむような作品ではなく、現代の生活や風景などを題材にする。島木赤彦全集・岩波書店に第六巻掲載の童謡作品をご参考に。

二、形式

四百字詰原稿用紙二枚以内（何連でもよい）  
※小中学生は教室に掲示した作品の一人一編も可

最初の行に題名

①児童・生徒は学校名・学年

②一般には氏名（ふりがな）

他は自由（パソコン・住所・電話番号も可）

三、締め切り

十月六日（水） 当日消印有効

四、応募方法

は学級別に一覧表（入賞者の賞状作成のため）  
都合上、低学年の児童も氏名は漢字、ゴム印可）を添付して、①く③のいずれかへお送ください。  
の記載された学級名簿に題名を書き込  
だものでも構いません。一般は個々に  
②のいずれかへお送りください。  
富士見町立富士見中学校  
〒三九一〇二一 島木赤彦研究会事務局  
長野県諏訪郡富士見町富士見四六五四

② 下諏訪町立赤彦記念館  
〒三九三〇〇三三  
長野県諏訪郡下諏訪町

③ 諏訪教育会事務局  
〒三九三〇〇三三  
長野県諏訪市諏訪一丁目二三一〇

※ 「童謡コンクール係」宛でお願いします。

五、賞

小学校低・高学年、中学校、一般の部  
それぞれ以下の賞を贈ります。  
・最優秀賞 一点  
・優秀賞 二点  
・優良賞・佳作 それぞれ若干名

六、審査員

島木赤彦研究会（本会・長野県支部）  
下諏訪町教育委員会・諏訪国語教育学会

七、発表

十二月中旬 後援する新聞紙上に掲載。  
一月二十二日（土）赤彦記念館にて表彰式。

八、その他

応募作品は、返却しない。  
校内に展示した作品の著作権は研究会に帰属する。  
外の作品の応募も認める。（ただし、他のコンクールに応募していない作品に限る）

※ 第十六回から第二十回までの作品と第十五回から第十九回までの楽譜の合冊集（第三集）を作成し

ご希望の方は第一集・第二集も残部があります。  
一冊につき郵便小為替八百円分（郵送料込）を添  
えて①へお送りください。

【小学校低学年】

ぎんやんま

つよくてはやいぎんやんま  
 おおきくてなかなかな  
 いちどでいいから  
 ぼくはくつがぬげてもおも  
 のどがかわいてもおも  
 とれるまであきらめない  
 ついにとれたよぎんやんま  
 ほかにとねがよりおき  
 かたいはねがざらざら  
 ぼくはさいこうのきぶ  
 やつとそれたぎんやんま  
 ひろいおそらにもどつ  
 ありがとうぎんやんま

【小学校高学年】

電線の上の巣を作り  
 毎日前を通るのツバメ君  
 小学生の男の子は  
 いつも元気がなくて  
 暗い顔して歩いてる  
 大丈夫かな  
 心配だけど寒くなつた  
 南の国に行かなくちゃ  
 海はあれて知らない心  
 南の国は行って知らない  
 通らないは知らない人  
 夢に出ない男の子

今は元気になつたかな  
 朝起きても知らない人ばかり  
 いるのは知らないかな  
 早く暖かくならないかな  
 そう思つて長い月日  
 つまらないうさびしい日  
 おつち早いけど帰らな  
 少し早く急いで帰らな  
 急いで急いで帰らな  
 やつと着いた男の子  
 次の日通つた男の子  
 笑顔で元気はしゃいで  
 これぞきみの本当の姿  
 良かった良かたの姿  
 安心だこれがきみの本当の姿

【中学生】

草原から  
 春の草原が呼んで  
 「こっちへおいで」と呼んで  
 心を弾ませとんでいく  
 目の前まで行つてみる  
 一面に広がっている草原  
 足を一歩大きくふみ出す  
 そつと耳をすましてみる  
 そつと顔を近づけてみる  
 草がひそひそ話している  
 虫が草の上を泳いでいる

静かに眠っている土  
 草に語りかけている風

身近にあつても気付かない  
 小さな小さな大発見

【一般】

赤とんぼ  
 案山子の頭に  
 目を回し  
 蛙の野菊をながめてる  
 青いぼうしの案山子さん  
 今年に豊年満作だ  
 雲見てる  
 案山子の肩にとまってる  
 ピチピチピチピチ  
 鳴きなごらながめてる  
 遠くの山を案山子さん  
 赤いズボンの案山子さん  
 今年に豊年満作だ  
 雲見てる  
 かまきり  
 案山子の背にとまってる  
 案山子  
 鎌ふつて  
 まつ青な空ながめてる  
 黄色い上着の案山子さん  
 今年に豊年満作だ  
 雲見てる

《参考作品》

夕方

母さん帰りが

おそいのか

夕日が暮れるが

早いのか

門のそとまで

出て見れば

三日月さまは

もう落ちて

田には蛙の

声ばかり

つらら

草家軒ばに

つららが下る

草家低くて

つららが長い

つららつらつら

日が出て光る

光きらきら

障子にうつる

やってきたのは

郵便くばり

頭かしげて

つららをくぐる

どんぐり

どんぐり山の

どんぐりは

落ちて落ちて

草の中

どんぐり山の

枯草は

分けても分けても

分けきれぬ

草を分ければ

手がひえる

どんぐり拾えば

日が沈む